

産業構造審議会 2050 経済社会構造部会部会長  
柳川 範之 様

産業構造審議会 2050 経済社会構造部会委員 相原 康伸  
(日本労働組合総連合会)

## 意見書

産業構造審議会 2050 経済社会構造部会（第3回）を所用により欠席しますので、書面にて下記のとおり意見を述べます。

### 記

#### <予防・健康づくりの意義と課題について>

##### I. 予防・健康づくりがもたらす経済効果について

予防・健康づくりによる経済効果は様々な観点から分析する必要がある。個人の生涯医療費・生涯介護費はむしろ増大するという指摘もみられる一方で、健康に対する将来不安が軽減することによる消費拡大や税収、労働力供給への影響、治療を理由とした退職が減少することによる企業の採用・教育コストの軽減などが想定され、またこれらは相互に関連する。多様な指標と要因を丁寧に分析する必要がある。

##### II. メンタルヘルスについて

精神障害による労災補償件数は増加の一途を辿っており、予防・健康づくりの取り組みはメンタルヘルスに関しても重要性を増している。長時間労働の是正をはじめとする働き方改革に向けた企業の積極的な取り組みをメンタルヘルスの観点からも推進されたい。

#### <ウェアラブルやデータ活用による疾病・介護予防や次世代ヘルスケアについて>

##### I. 疾病・介護予防・健康増進について

費用対効果の高い民間サービスの活用は非常に重要であり、積極的な活用や横展開を進めるべきだと考える。ただし、保険者や自治体が民間に委託し保健事業を推進するにあたっては、民間に丸投げするのではなく、保険者・自治体が主体的責任をもって当該事業に取り組むべきであり、利用者の声も十分に反映できる仕組みも検討しつつ、評価・見直しを継続的に実施されたい。

また、予防・健康づくりに向けた取り組みを普及するにあたっては、健康無関心層をいかにして巻き込んでいくかが最大の課題である。国民全体の取り組みを進めるには、こうした方々の行動様式や志向などを分析し、仕組みづくりに反映することも重要である。ただしその際、あくまで予防・健康づくりは個人の主体的な意志のもとで行われるべきであり、取り組まないことに対する事実上のペナルティを課すような仕組みとしてはならないと考える。例えば、公的保険においては、保険料や給付に何ら

かのメリット・デメリットを与えるような仕組みは妥当ではない。

## Ⅱ. 次世代ヘルスケアについて

ウェアラブル端末の活用によって、より手間を感じさせずに自らの健康管理ができることが期待される。その際、機器のユニバーサル性に十分配慮し、機器を装着・利用できないために予防・健康づくりの取り組みへの参加が阻害されることのないようにすべきと考える。

また、介護サービスにおけるICTの活用についても、有効性と安全性が確認されたものは積極的に導入していただきたい。その上で、事故防止や活用促進に向けた講習会の開催などに対する国の積極的な支援も期待したい。また、自立支援を目的とする介護サービスの性質や利用者のQOL向上という観点から、従来の対人サービスが単にICTへ置き換わることで、サービスの質の低下や利用者の尊厳を損なうことがあってはならない。人員配置基準の緩和などへの反映を検討する際には、丁寧な検証と分析にもとづいて行うべきである。

以 上